

資料 1

前回の振返りと第2回の議題について

01

前回の意見・質問に対する回答

02

駐輪場利用促進プランからの社会情勢の変化

03

課題解決に向けた今後の方向性（案）

01.前回の意見・質問に対する回答

①川崎市の概要と自転車利用の現状について

No.	意見・質問	当日の受け答え	回答
1	(榎田委員) 分担率のデータが2018年ということでコロナ前であり、コロナ禍で自転車利用が増加したことで、考え方が異なってくると思います。自転車の利用が増え、バスの利用が減っている状況であると思います。	自転車利用については、次の「駐輪対策の現状と課題について」で説明させていただく。	川崎市統計書からのデータによると、コロナ禍前の平成31年度（令和元年度）のバス、鉄道の乗車人員、自転車利用台数の値をそれぞれ1.0とした場合、令和4年度では、バスが0.88（12%減）、鉄道が0.81（19%減）、自転車が0.80（20%減）であり、自転車が増加していることは見受けられない。
2	(米川副会長) パーソントリップ調査のデータはH30のものであるが、今後の議論するうえで、もう少し新しいデータはないのか。	パーソントリップ調査については、10年に1回、国において実施しており、次回が令和10年度となる。駅周辺の駐輪場などの状況については、川崎市で毎年実施している実態調査のデータを利用して検討をしていきたいと考えている。	パーソントリップ調査については、10年に1回、国において実施しており、本協議会で使用するデータは、直近の平成30年の調査結果を利用している。 駅周辺の駐輪場などの状況については、川崎市で毎年実施している実態調査のデータを利用していきたい。 【補足】 本市で毎年実施している実態調査（駐輪場利用率、放置自転車の台数）の概要 ・対象 市内55駅と市外2駅の周辺 駅を中心に半径約500m 放置禁止未指定駅は、半径約300m ・内容 市営及び公共の用に供されている民営駐輪場の利用状況。放置自転車の台数 ・時期 10月～11月 ・時刻 主に平日9時、16時

01.前回の意見・質問に対する回答

②駐輪対策の現状と課題について

No.	意見・質問	当日の受け答え	回答
1	(梶谷委員) シェアサイクルの導入・促進によって放置自転車を減らすというアプローチもある中で、シェアサイクルに関する話が無いが、シェアサイクルについてどのように扱っていくのか。	シェアサイクルについては、自転車の活用の中に位置づけられていることから、自転車活用推進計画で議論していく。	シェアサイクルの利用・普及促進については、自転車活用推進計画における基本施策の一つ「自転車の活用」の中に位置づけている。御意見を踏まえ、放置自転車対策の視点からシェアサイクルの利用等についても検討課題としたい。
2	(梶谷委員) 放置自転車が迷惑だという認識はあるが、取り締まるだけでなく、移動ニーズの観点から、公共交通の一連のネットワークを図っていくことも考えられるのではないか。	バス停付近の放置自転車対策については、歩行者の通行の安全を第一に、放置禁止区域の指定だけでなく、駐輪場整備とセットで考えていきたい。	バス停付近の放置自転車対策については、歩行者の通行の妨げになっていることもあり、対策が必要と考えていることから、関係する交通事業者や関係局区と連携を図り、効果的な対応を考えていきたい。
3	(八山委員) 附置義務駐輪場の利用実態は把握しているか。	附置義務駐輪場の利用実態については、実態調査を行っている駅周辺の放置禁止区域内にある施設については把握しているが、放置禁止区域以外のものは、把握できていない。	本市が毎年実施している実態調査では、駅周辺の公共の用に供されている民営駐輪場も対象としており、この中に附置義務により設置された駐輪場が一部含まれている。市内全域の附置義務により設置された駐輪場については、今後、調査を実施していきたいと考えている。

01.前回の意見・質問に対する回答

②駐輪対策の現状と課題について

No.	意見・質問	当日の受け答え	回答
4	(国分委員) 放置禁止区域以外について、周辺の工場や企業に働きかけは行っているのか。	周辺の会社や企業等に働きかけは行っていない。	放置禁止区域以外において、現在、周辺の企業等に働きかけは行っていないが、今後、放置自転車が課題となっている地域周辺については、周辺の企業等に放置防止の働きかけを行うとともに、自転車の利用状況や工場内での駐輪場所の設置状況などについて調査していきたい。
5	(国分委員) 実態調査を9時台と16時台で行っているが、重複している放置自転車はあるのか。	放置台数については、9時台、16時台の両時間帯に放置していれば台数が重複する。	実態調査では、9時台、16時台の両時間帯にまたがり放置している自転車があれば重複してカウントしている。
6	(米川副会長) 放置対策を行っていくうえで、放置理由などを把握していく必要があると思うので、返還時にアンケートを実施してはどうか。	放置自転車に関するアンケート実施していない。アンケートの必要性の有無について検討する。	駐輪対策における具体的な施策を実施するにあたり、放置理由などの把握も必要であることから、保管所でのアンケート調査を検討していく。

02.駐輪場利用促進プランからの社会情勢の変化

駐輪場利用促進プラン（H23）立案時の背景

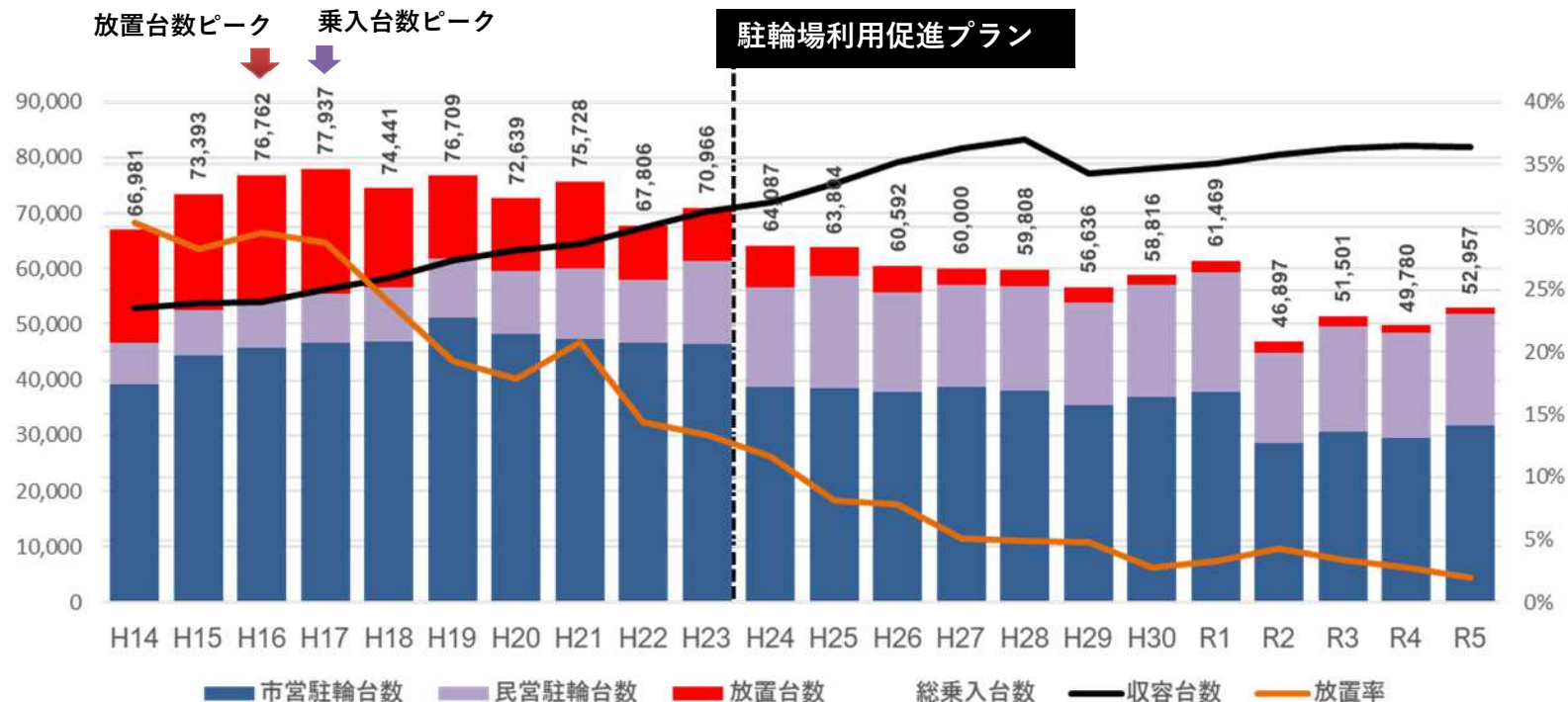
- 川崎市の人口はH22頃まで年平均1%以上増加していた。
- 人口増加だけでなく、端末自転車分担率も増加傾向にあり、総乗入台数も7～8万台で推移していた。
- H23まで駐輪場が量的に不足しており、「量」の確保を基本としつつ、空いている駐輪場へ放置を誘導することを中心に放置対策の方針を策定
- 駐輪場利用促進プランは放置「対策」としての視点から関係機関とともに対応

13年
経過

社会情勢
の変化

現在の状況

- H23以降、人口の伸び率は鈍化し、川崎区や麻生区では人口減少局面に入っている。
- H21頃から武蔵小杉駅周辺を中心に超高層マンションが増加し、駅徒歩圏内における人口増加が全体を牽引している。それに伴い、端末自転車分担率は減少傾向に転じている。
- 近年、子ども乗せ用など大型化した自転車など多様化したニーズが高まっている。
- H23以降、駐輪場の整備も進み、一部地域によっては、再開発事業の進捗などにより、整備が必要な地域もあるものの、「量」的には概ね充足している。
- 市全体の需給バランスについては、図に示すように余裕が生まれているが、駅別やエリアによっては放置が多い場所もまだ存在している。



<川崎市内全駅の総乗入台数・放置比率の推移>

03.課題解決に向けた今後の方向性（案）

これまでの取組を踏まえた課題

- | | |
|----------------------------------|----|
| ① 駐輪場利用の促進 | 継続 |
| ② 保管所の管理運営の効率化 | 継続 |
| ③ 駐輪場の適正な補修 | 継続 |
| ④ 民間事業者による駐輪場の整備促進 | 継続 |
| ⑤ 鉄道事業者や商業施設事業者と連携した駐輪場整備などの取組推進 | 継続 |

現状を踏まえた課題

- | | |
|---------------------------|----|
| ⑥ 保管所の適正な運用 | 新規 |
| ⑦ 放置禁止区域以外に放置されている自転車等の対応 | 新規 |
| ⑧ 夕方の放置自転車の対応 | 継続 |
| ⑨ 夜間の放置自転車の対応 | 新規 |
| ⑩ 撤去、保管に要する費用の考え方の整理 | 新規 |

◆ 総合的な駐輪対策のあり方

課題解決に向けて2つの視点で検討する。

1.効率的・効果的な駐輪場と保管所の管理運営について

1-1.駐輪場利用の現状を踏まえた利用料金のあり方について

【課題①】

1-2.持続可能な駐輪サービスの提供に向けた適切な施設の補修について

【課題③】

1-3.放置自転車等対策にかかるコストと返還手数料の取扱いについて

【課題⑩】

1-4.保管所の機能集約や再配置などについて

【課題②・⑥】

2.放置自転車等に係る新たな課題への対応について

2-1.放置禁止区域以外の放置自転車の対応について

【課題⑦】

2-2.夕方以降における放置自転車対策の取組について

【課題⑧・⑨】

2-3.公民連携による駐輪場整備の促進について

【課題④・⑤】